

1 反語その1

<書き下し文・意味>

- (1) **いづくんぞ** 王侯将相寧んぞ種有らんや (王侯や將軍・宰相の位がどうして血統で決まっているものか、いや、決まっていない)
- (2) **あに** 豈に千里を遠しとせんや (どうして、千里の道のりも遠いと思うだろうか)
- (3) **またよろこばしからず** 学びて時に之を習ふ、亦た説しからずや (学問をして機会あるごとに復習するのは、なんとうれしいことではないか)
- (4) **あに** 名は豈に文章もて著はれんや (どうして詩文などによって名声を得ることができようか、いやできない)
- (5) **なからんや** 豈に能く怪しむこと母からんや (どうして怪しまずにいられるだろうか、いや怪しまずにはいられない)

2 反語その2

- (6) **ひとり** 独り廉將軍を畏れんや (どうして廉將軍をおそれたりしようか)
- (7) **ひとり** 独り安くんぞ黙然として已むことを得んや (どうしてだまってやめることができようか、いやそんなことはできない)
- (8) **あへてはしらざらんや** 百獸の我を見て敢へて走らざらんや (あらゆる獸が私を見てどうして逃げ出さないだろうか、いや逃げ出すに違いない)
- (9) **うらみをのべんや** 長者問ふ有りと雖も、役夫敢へて恨みを伸べんや (あなたさまがおたずねになっても、私がどうして恨みの気持ちを述べられましようか、いいえ述べられません)
- (10) **なからんや** 独り同じく然りとする所無からんや (どうして同じくそうだと思えるところがないだろうか、いやあるはずだ)

<句法解説>

寧～乎は、反語の句法。「いづくんぞ～んや」と読み、「どうして～か、いや～でない」と訳す。

豈～哉は、反語の句法。「あに～んや」と読み、「どうして～しようか、いや～しない」と訳す。

不[二]亦～[一]乎は、反語の句法。「また～ずや」と読み、「なんと～ではないか」と訳す。

豈～哉は、反語の句法。「あに～んや」と読み、「どうして～しようか、いや～しない」と訳す。

豈～哉は、反語の句法。「あに～んや」と読み、「どうして～しようか、いや～しない」と訳す。

独～哉は、反語の句法。「ひとり～んや」と読み、「どうして～か、いや～でない」と訳す。

独～哉は、反語の句法。「ひとり～んや」と読み、「どうして～か、いや～でない」と訳す。

敢不[レ]～乎は、反語の句法。「あへて～ざらんや」と読み、「どうして～しないことがあるか、いや～する」と訳す。

敢～乎は、反語の句法。「あへて～んや」と読み、「どうして～するか、いや～しない」と訳す。

独～乎は、反語の句法。「ひとり～んや」と読み、「どうして～か、いや～でない」と訳す。



【アプリ版のご紹介】古文・漢文

古文・漢文を学習中の中学生、高校生必見！定期試験とセンター試験に頻出の「古文単語」「古典文法」「漢文」を、完全に無料で学べるアプリが登場！！



【オマケの一題】

中学社会 地理・歴史・公民

排他的経済水域は、領海から何海里以内？

(A) 12海里以内 (B) 50海里以内 (C) 100海里以内 (D) 200海里以内